



キラキラきらめく ⑩

高瀬 梨左さん

たかせ りさ 27歳 弓之町

小さな頃から歌うことが大好きだったという梨左さんは、小学校時代は高粱少年少女合唱団、中学校・高校では合唱部に所属し、その後、音楽を専門に勉強する短期大学を卒業しました。

また、料理も同じくらい好きで、母に習い、さらに専門学校に通って、腕に磨きをかけました。現在は、川面町の高粱自動車学校内のレストランで調理師として働いています。

たくさんのお客さんと良い同僚に囲まれた仕事は楽しいけれど、音楽の技術を使う仕事もしてみたい…、将来への思いは揺れているそうです。

そんな梨左さんに高粱市について尋ねると、「大好きです。自然が豊かなところや人が優しいこと、何より友達がたくさんいることが一番ですね」と答え、にっこり笑顔を見せました。

高粱知るぶふれ ⑩



知るぶふれは「高粱を知る」と「シルブプレ」(フランス語で「よろしければ」)を合わせた言葉です

サトウキビをかじったことがありませんか？ 私は、カリブ海や東南アジアなどの暖かい地域でしか栽培できないと思っていたサトウキビが高粱で生産されていると聞いて驚きました。冒険的な賭けをしたその人に好奇心をそそられて、松原町でお茶とサトウキビを作っている浦田大輔さんに話を聞きました。

浦田さんは玉野市出身で、高粱市へ来る前、自転車でも日本を2周し、旅の合間に北海道のラベンダー園や沖繩のサトウキビ畑でアルバイトをしながらいろいろなことを学んだそうです。そして就農を決めてから、「高粱紅茶」をつくる



松原町の藤田泉さんに「空いている茶畑がある」と声をかけられて、5年前に専業農家として踏み出したのです。茶畑でもサトウキビ

浦田さんの話を聞いてみると、高粱市はそのような再出発にぴったりの場所なのだと思えます。

畑でも無農薬栽培にこだわり、失われた在来種や加工方法を復活させ、高粱産のサトウキビを加工し「天空の黒蜜」として販売し、さらに、高粱での就農をPRする活動の一貫として、都会の若者を受け入れて収穫体験なども行っています。

浦田さんは、大げさに意識することなく自由な人生を歩む人の手本になるのでしょうか。日本をはじめとする先進国では、型にはまらず、際限なき成長から一歩離れ、環境に優しく、しかし社会の役に立つ生活に憧れている人が増加してきています。



野宿が大好きという浦田さん。今年の冬もまた旅に出かけます



昔ながらの工法で作られた「炙りゼ口番茶」、「天空の黒蜜」はともに高粱市観光案内所などで販売中

協力隊がゆく ⑩

皆さん「ゲストハウス」をご存じでしょうか。旅行好きで各地を泊まり歩いたことがあり方は、一度は利用したことがあると思います。また、聞いたことがあるけど利用したことはないという方も多いのではないのでしょうか。

一般的にゲストハウスは、素泊まり、相部屋、安宿という点で共通しています。主に旅費を節約したい旅行者や学生たちが利用する場所です。しかし近年は旅行者たちの意識に変化が現れてきています。「地域の人たちと触れ合う旅をしたい」「自分の足で移動して、その時にしか得られない旅の醍醐味を味わいたい」など、旅行を通じて、人や地域との交流を求める傾向がみられます。

場所を高粱市に置きかえてみたらどうでしょうか。例えば、城下町を散歩中に住民の方に会えば挨拶を交わし、買い物を楽しみながら旅行のいきさつを話したりと、



金盛友彦隊員

自然と交流が生まれてきます。お祭りなどの際には、ゲストハウスという場を使えば、地元住民と旅行者が顔を会わす機会も生まれてくるでしょう。

そこで、私は今描いたことを実現するため、川面町内の古民家をゲストハウスに改修し、屋号を「ゲストハウス柔」と名付け、このたびオープンに至りました。ご協力いただいた皆さま、この場をお借りしてお礼を申し上げます。初心を忘れずに、これから頑張っていきます！

宿の様子はフェイスブックページ「GUESTHOUSE YAWARA」をご覧ください。



オープンを祝う協力隊員たち



川面町の古民家を改修しました

市長室から こんにちは

●有漢地域に一昨年整備した分譲住宅団地は、これまで4区画が売却でき、残り4区画となりました。現在計画策定の最終段階となっている「高粱市立地適正化計画」の中でも、地域拠点の一つとして、暮らしに必要な施設の確保や住環境の整備を進めていく地域に定めています。有漢地域には市営住宅も多く、有漢IC付近には56戸を有する横見団地を整備し、子育て世帯が多いのも特徴で若い方や移住者に好評を博しています。有漢のみならず周辺地域では、買い物や簡単なサービスが少ないという課題があります。地域の魅力を高め、日常の買い物などの利便性向上に繋がるコンビニエンスストアの誘致に向けて、地域の方々と相談しながらいろいろと働きかけています。開設に係る経費の支援措置を準備して実現できないかと考えていますので、皆さんの中で興味をもたれた方はご提言をお寄せください。

●今年も備中町平川地区にある鋤崎八幡神社で、県指定の無形民俗文化財の渡り拍子が、多くの氏子の皆さんや観光客の方を集めて奉納されました。元々、鋤崎八幡神社の氏子の皆さんのお祭りであるのだと

思いますが、少子高齢化、人口減少の波には勝てず、地域外からの助っ人も多いと聞いています。そのような状況の中、今年も伝統行事が行われたことは素晴らしいことだと思います。市内各地で渡り拍子が伝承されていますが、市としてもこの伝統を守り伝えるために支援を行っています。是非多くの方に、その活動に加わってほしいと思います。

●JR西日本が先日導入を発表した「新しき長距離列車」は、京阪神と山陽、京阪神と山陰を結ぶとされています。今、「瑞風」が好評のうちに運行されています。もう、乗車された方もいらっしゃるのではと思いますが、この列車は気動車ですから、どの路線でも走行することができます。今回新しく設定される列車は電車寝台のようで、走ることができる路線も山陽本線や伯備線などに限られたものとなるようです。是非、備中高梁駅に停車を実現して、多くの観光客の皆さんを高粱にお迎えしたいと思っています。いろいろとお知恵とご支援をお願いします。

近藤隆則